

## 第4節 その他の先進的な市民参加事例

### 1 地域の高校生とのパートナーシップ ～オレゴン州 Philomath 市～

オレゴン州 Philomath 市はオレゴン州の西部に位置する人口約4,300人の小さな街である。ここでは、地域を通る州道の改築（新設や増設も検討されている）が原因で、地域間に感情的な対立が生まれてしまった。この状態は約 20 年間も続いており、州道の改築も棚上げ状態となっている。このような中、2002 年秋より州政府は地域の学校を巻き込んだ市民参加を開始し、この行き詰まり状態の打破にむけて動き出した。具体的には、高校生の代表をプロジェクトの諮問グループ（Advisory Group）のメンバーに任命し、今までとは違った視点、違った雰囲気でも道路計画の話し合いを進めている。今回のプログラムはまだ試行段階であるが、高校生を計画課程に加えたことにより、下記のようなメリットが生じた。

- ・地域のことを真摯に考え、中立的な立場からの発言が得られた
- ・意見の対立が深まってしまった他の参加者とは一線を画している
- ・ミーティングの場に感情的になりにくい雰囲気が生まれる
- ・学校全体を巻き込むことができる

当初、学校側や PTA、会議の他のメンバーには、生徒が他のメンバーと同じレベルで議論ができるのか、きちんと地域のことを考えていけるのか、という点について疑問を持つ人も少なくなかった。しかし結果は予想以上であり、最終的にはいくつかの道路計画案が提案されるまでに至った。この課程における高校生の果たした役割は非常に大きく、今後も高校生の参加が期待されている。

今回のプロジェクトの成功の背景には、学校側の理解、市長の協力、学生への事前研修など、いくつもの要因がある。また、高校生に対しては地域住民も感情的になりやすく、冷静になって話しができた、という“大人の対応”も重要な要因であるようだ。この手法はどこでも通用するというものではないが、事業が行き詰まっている状態においては“中立な関係者”の存在が重要であり、地域の将来を担う高校生の参加という手法は非常に興味深い。

### 2 マイノリティグループへのアプローチ ～ペンシルバニア州ランカスターカウンティ～

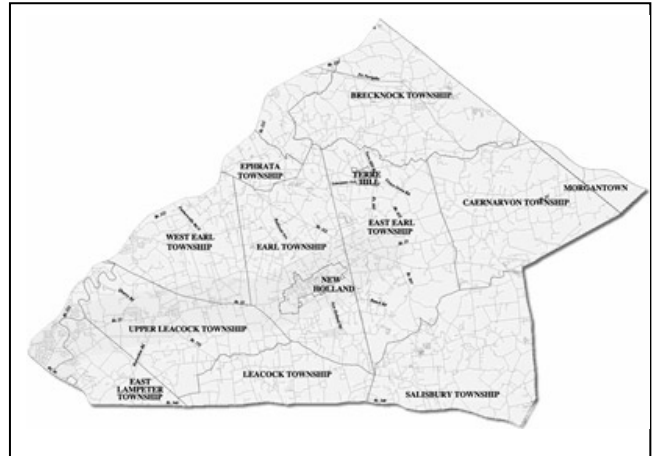
ペンシルバニア州ランカスターカウンティは、アーミッシュと呼ばれる現代文明を拒否した人々が住んでいることでも知られている。

#### (1) 事業の概要

この事業はペンシルバニア州ランカスターカウンティを走る州道 23 号線の将来計画についての合意形成プログラムで、「PA Route 23 Project」と呼ばれている。ランカスターカウンティ周辺は近年の人口増に伴い交通渋滞も多くなってきており、州政府としては道路の新設を行いたい意向である。しかし、この地域には伝統的な生活をしているアーミッシ

ユの人たちが多く生活しているため、通常的手法とは異なった合意形成手法が求められていた。

アーミッシュの人々の生活スタイルは他のアメリカ人と大きく異なり、宗教、文化だけではなく、言葉の面でも両者には大きな違いがある。「PA Route 23 Project」を進めるにあたっての課題は、以下のように整理できる。



#### ・言語の違い

アーミッシュの人々が使う言語はドイツ語の一方言であり、現代米語への翻訳手法も確立されていない。

#### ・文化の違い

ランカスターカウンティには数多くのプレーン (Plain) 派の人々が住んでおり<sup>71</sup>、彼らの習慣は現在アメリカ人のそれとは大きく異なっている。

#### ・宗教観の違い

アーミッシュの人達の考えは全て彼らの宗教に基づいている。教会のあり方、家族のあり方、隣人との付き合い方、世間からの隔離を求める傾向、それらを理解することが相互コミュニケーションを図るうえで必要である。

一言でアーミッシュといっても宗派は様々であり、オールド・オーダーと呼ばれる非常に厳格な集団もあれば、近代文明に対して比較的寛容なグループもある。このような状況において、州交通局とランカスターカウンティ政府は以下のような手法でアーミッシュコミュニティと連携を深めていった。

#### ・地域住民との連携

カウンティ政府及び州政府の特定メンバーでチームをつくり、日頃からアーミッシュの人たちと接触している人々を仲介役としてアーミッシュコミュニティへと入っていった。

#### ・コミュニティ・ミーティング

ミーティング開催にあたってはプレーン派の司教を連絡の窓口にし、アーミッシュの教義に基づいてミーティングの時間や場所を設定した（宗教により話し合い等ができる日にちが決まっているとのこと）。アーミッシュの服装については教義の中で厳格に決められているため、ミーティングにおいてはプロジェクトメンバーへの服装規制を行い、アーミッシュの人々の文化を尊重して話し合いを行った。また、今回のプロジェクトでは地域ごとに諮問委員会を (Advisory committee) 設置しているが、アーミッシュの人達が多く住む地域の諮問委員会では Plain 派の人にも委員になってもらっている。

<sup>71</sup> アーミッシュもいくつかの宗派に分かれているが、最も数が多いのがプレーン派と言われている。

#### ・アーミッシュの人々の視点にたったの道路計画

宗派によって多少の違いはあるが、アーミッシュの人達は車や電気等の近代文明を否定しており、移動手段は馬車（バギー）に頼っている。道路計画にあたってはバギーからみた利便性も考慮する必要があるため、プロジェクトのメンバーはバギー体験も実施した。

このような経緯で話し合いを持ち続けた結果、閉鎖的な社会を形成している人々もプロジェクトメンバーと親しくなり、徐々にではあるがコミュニケーションが成り立つようになってきているそうである。しかし、このプロセスには長い時間がかかり、また、マニュアル等も全くない中で進めているため、試行錯誤の連続のようだ。ただ、アーミッシュの人々は自分たちの集団に対する利益を個人の利益より尊重する傾向があり、各地の公共事業でみられるニンビー（NIMBY : not in my backyard）を追求する傾向は薄いらしい。自分の利益よりも集団としての将来を真剣に考える姿には、担当するスタッフも学ぶべきものが多いと感じるそうである。